

国立大学法人総合研究大学院大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

総合研究大学院大学は、人文・理工にわたる多数の基礎学術分野につき、大学共同利用機関法人等が各地に設置する大学の共同利用の研究所その他の機関において、各施設の研究環境を最大限に生かした博士課程教育を総合的に統括実施し、学融合による新学問分野の創出・発展を図りつつ、国際的に通用する高度の研究的資質とともに広い視野を備えた人材の育成を目指している。第2期中期目標期間においては、学問分野にとらわれない専門性を超えた総合的な教育研究を行い、創造性豊かな研究者を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、博士号取得に至るロードマップの検討や広い視野を養成するための「専門基礎科目」の設置等による課程制大学院の実質化に向けた取組を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(組織運営の改善、 事務等の効率化・合理化)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

分散キャンパスの円滑な運営を図るため、3人の学長補佐(全学事業担当、評価・改善担当、学生支援担当)を配置するとともに、修了生ネットワークの構築や総合教育科目充実のために特命事項担当教員を配置している。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

経営協議会における学外委員からの意見の法人運営への活用状況について、平成 24 年度までに公表がなされておらず、平成 25 年 8 月に公表を行っていることから、引き続き、適切な対応が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 13 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

（ 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、 経費の抑制、
資産の運用管理の改善 ）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（ 評価の充実、 情報公開や情報発信等の推進 ）

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

「新入生確保のための広報的事業」を学内公募型競争的資金として採択し、各研究科・専攻が主体的に実施する大学院説明会、オープンキャンパス、体験入学等における優秀な新入生確保のための広報に係る取組に対し、支援を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

（ 施設設備の整備・活用等、 安全管理、 法令遵守 ）

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

「総研大学術情報基盤フォーラム Si2012」を開催し、研究機関間の連携を踏まえた情報セキュリティポリシーの取り扱いについて協議を行うとともに、分散キャンパスにおける課題である教員・学生間のシームレスな情報共有等を図るため、平成 25 年度に葉山キャンパスのみにおける情報ネットワークの運用支援を行っていた「葉山情報ネットワークセンター」を改組し、全学的なネットワーク基盤である「情報基盤センター」を設置することとしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

特定の研究科に属さない新たな教育課程として編成した「総合教育科目」、「物理科学コース別教育プログラム」等の特別教育プログラムを実施するとともに、大学院博士課程につながる研究基礎力と広い視野を涵養するためのコースを総合教育科目「専門基礎」として位置づけ、プログラムの多くを遠隔講義システム等を用いて試行実施している。

学术交流ネットワーク構築のための IT 基盤であるウェブサイト「Soken-Anet」の正式運用、「Soken-Anet」メンバーシップ把握のための修了生のオンライン進路状況調査等の開始、関連する学内コミュニティサイト Sokendai Square（全学開講科目縦覧や学術講演会等速報・周知等を図る内部サイト）を試行するなど、学术交流ネットワークの整備を行っている。

広い視野を養成するために専門基礎科目及び専攻間融合プログラムを設置し、各開講科目を領域に分類し履修の利便性の向上を図る科目縦覧表を作成するとともに、博士前期段階修了時の能力を測るために博士論文研究基礎力審査を検討するなど、課程制大学院の実質化に向けた取組を実施している。